

地域密着型サービス事業所の自己評価項目（自己評価結果表）

（調査項目の構成）

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を生かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
 - (1) 一人ひとりの尊重
 - (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援
 - (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援
 - (4) 安心と安全を支える支援
 - (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり
 - (1) 居心地のよい環境づくり
 - (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり

※記入方法

- 管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- グループホームの場合は、ユニットごとにその管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- 取り組みの事実を実施している内容、実施していない内容の両面から記入すること。
- 取り組んでいきたい項目に○を記入し、すでに取り組んでいることも含めて、取り組んでいきたい内容を記入すること。
- サービスの成果は取り組みの成果に該当するものを○印で囲むこと。

※項目番号について

- 評価項目は、100項目です。

事業所名 いこいの里 さくら貝

ユニット名 サザエ

自己評価実施年月日 平成 20 年 12 月 9 日

記録者氏名 岡林 伊都美

記録年月日 平成 20 年 11 月 19 日

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	○	理念を地域の中で暮らしていくということを含め考え直す。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	○	全スタッフ、個々が互いに注意しあい、実践に向けて取り組んでいくよう努力する。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	○	なお一層、地域へのイベントに参加したり、事業所のイベントにも参加していただけるよう呼びかけ、その中で理念を理解していただけるよう取り組んでいく。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	○	近所に出かける機会を増やしていく。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	○	今後はもっとたくさんの行事などに積極的に参加していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p> <p>施設の中での行事や手芸教室などに呼びかけ、また、消防訓練へも参加していただいたり、1Fホールはいつでも利用できるよう開放している。</p>	○	ホール・庭などを利用し、他にも役に立てることはないか話し合い、それにつけ取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p> <p>日々取り組むよう協力している。</p>	○	評価に対し改善を促された場合は、どう変えていくか話し合い、1つ1つ改善に取り組んでいきたい。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p> <p>2ヶ月に1回、利用者・その家族・市役所の職員さん・地域の方の意見をいただき、また、施設側からの報告も行っている。</p>	○	地域の方や家族の方の意見を尊重し、今後のサービス向上に役立てていきたい。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p> <p>運営推進会議以外ではほとんど行き来する機会がない。</p>	○	ホーム側からも積極的に情報を伝えるようにし、それに対しアドバイスをいただき市との連携につなげていきたい。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p> <p>一部スタッフしか成年後見制度とは何か？を知らないと思う。</p>	○	このようなことについての研修などがあれば参加し、誰でも適切な対応ができるよう努力したい。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている</p> <p>研修会に参加し、どのような事が虐待になっているのかを知り、個々が認識していく。</p>	○	知りえた虐待についてスタッフ間で学習し合い、防止に努める。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	口頭で説明し、質問事項にお答えし、理解していただき、文書にて確認印をいただいている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部の相談窓口について説明している。また、意見箱も設置している。	○ 利用者・家族からの不満や苦情に関する意見はほとんど聞かれないため、ホーム側から話しやすい雰囲気を作っていく。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	担当者は暮らしの様子について毎月お手紙を書き、広報にて写真や異動の状況を伝え、金銭については面会時に確認をしていただき、毎月のお便り事にコピーし送付している。また、健康状態についてはその都度説明・報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回家族会を開き家族の意見をいただき、意見については改善できることは改善している。	○ 家族会へ出席される家族が少ないため、より多くの方に参加していただき、意見も出していただけるよう努力し、話し合いの間を多く持つことにより運営に反映させていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回スタッフ会を開き意見を聞いているが、対応できないこともあり、それについては説明をしできることは受け入れるようにしている。	○ 意見は決まったスタッフからしか出ないため、全員が意見を出せるよう方向付けたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事や緊急時、必要に応じてスタッフの人数を配置し確保している。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	極力、異動はさけているが、退職者がある場合はやむをえないことが多い。	○	退職者があり補充人員されたりとスタッフが変わった場合は、慣れるためなるべく古いスタッフがかかわるようにしていく。
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会は設けているが、積極性のあるスタッフが少ない。また、研修に行った場合はレポートを書き、回覧で各ユニットにまわし研修発表会も開いている。	○	できる限り研修に参加してもらうように働きかけ、知識や技術の向上につなげていきたい。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会時にグループワークでの交流で他ホームの取り組みも開いている。	○	他ホームで聞いたり、話し合ったことをユニットでも話し、向上に向け取り組んでいきたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	事業所としてはしていないと思う。	○	職場を離れての交流場を設けてもらい、働く者の本音を聞いてもらえる場をもってもらい、給料の待遇面などについて気軽に話を聞くことも事業所としては必要だと思う。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	一部のスタッフは向上心を持って働いていると思われるが、全スタッフとなれば思えない。	○	向上心に合わせた給料は、待遇により、向上心をもって業務にあたっている者はより一層努力するのではないと思われる。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所時に本人・その家族に意向を十分に聞き細かく理解しやすいように説明し、また、入所前にはケアマネが説明を入れている。利用者の話を良く聞くように努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前にはケアマネが家族の意向や利用者の話を聞き説明をしている。入所時には再度、家族の意向、本人の意向が話しやすい雰囲気と話しかけている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居を希望されても入居を直ぐにできない場合がほとんどのやめ、相談窓口や他のサービスについての説明をしている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族の方に再三、面会に来ていただいたり、他者と慣れるためなるべくスタッフが付き添い、他者との間に入り会話をしやすい雰囲気を作っている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と一緒に調理したり、洗濯・掃除などを行いながら昔の生活を知るようにしている。	○ これからもスタッフ・利用者のラインを引く事なく互いに支えあいながらの生活が続くよう努力していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居当初は面会も多く見られるが、日がたつにつれ家族の足は遠ざかっていく。	○	入所者がホーム生活に慣れるにつれ、家族は遠くになってしまうのが現状のため、ホーム側からの声かけにて面会に来てもらっている。なるべく足を運んでもらえるよう話しかけていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ホーム・施設でのイベントなどへの参加をしていただき、一緒に過ごしていただく時間を作るように努力はしている。	○	認知症が進行するにつれ、家族は遠ざかっている事に対し、家族への理解と本人の気持ちを代弁できるように努めていく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	実家周辺にドライブに行ったり、利用者の知人が訪ねて来たときには快く案内している。	○	馴染みの場所を聞き、プランとして行っている。また、行っていない方に対しては少しでも馴染みの関係が途切れないように努力していく。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	仲の良い利用者は時として入浴も一緒にしている。何かをする場合は、スタッフも一緒に行うことにより孤立はしていない。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	再入居を希望される利用者や家族には今の状況や相談事にも応じている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や要望を聞くことにより把握に努めている。また、行動や言動の中から読み取るよう努めている。	○	認知症が進行しても言動や行動の中で読み取っていく努力をしていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から生活歴などを聞き、ホーム生活で反映できるよう努めている。	○	把握したことをケアに活かしていくことを大切に、スタッフ全員が把握できるようにしていく。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一日の生活の様子・、状態を記録し、申し送り・カンファレンス時に現状の説明を報告している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	家族などの意見を取り入れ、本人の意向もくみとり、本人が気持ちよく生活できるようプランを作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	スタッフ会で本人・スタッフ参加のもとで、プランの経過や状態を検討し、本人の意向を重視し変更を行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	○	今後も続けていきたい。
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	○	希望があれば行きたい。
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>情報提供を行い、本人のとまどいを防げるよう努力している。</p>	
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員により子ども扱いをしているような言葉かけをしていることがある。記録をする場合には、利用者の近くで書くため、他者に内容がわからないようにすることも必要。</p>	<p>○</p> <p>慣れすぎて、言葉づかいが子ども扱いのように○ ○ちゃんとちゃん付けで呼んでいることもあるため、利用者を人生の先輩として見るようにする。記録については書く場所・置き場所の再検討を行う必要がある。</p>
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>何かを言いたそうにしているときは、本人にゆっくりと話を聞き、何度もわかるように説明を入れている。外食時は本人にメニューを自ら選んでもらっている。</p>	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者のペースに合わせるよう努力はしているが、時間がせまってくるとスタッフの主導になっていることも多々ある。</p>	<p>○</p> <p>できるだけ利用者のペースにあわせられるよう、業務の見直しや対応方法を考え、利用者の視点での介護ができるよう余裕のある介護をめざしたい。</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>本人の希望する理容室に行っている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>スタッフと一緒に食事を作り、同じものを食べ、片付けも一緒に行い会話ははずんでいる。</p>	
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>おやつや菓子は利用者に選んでもらい、また祭りや買い物に行けば本人の好きな物を買って、一人一人が楽しめている。</p>	
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>訴えられる方にはその都度対応し、訴えられない方には排泄チェック表で排泄パターンを把握し、適時に誘導し排泄できるようにしている。</p>	
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴は毎日行っているが時間帯で聞かれると入浴時間として希望なのか？が聞かれる。</p>	<p>○</p> <p>毎日の入浴で無理強いしていないが、日中入浴で定着しているため、利用者からの何時に入りたいという希望はないが、1名のみPMに入りたい方がおりその希望には添えているが、一般入浴となるとなるべく希望に添えるよう対応していきたい。</p>
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>思い思いの所に座ったり、夜は眠くなった時に帰室して自由にできている。</p>	
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>利用者本人ができることは協力して、掃除・洗濯干しや取り込み・調理を行い、好きなTVやビデオを見たり、時には花見・ミカン狩りに行き、支援できている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を持っている方もいれば預っている方もいる。外出や買い物時、現金を持っていったときは自分で払い、預っている方についてはその中から利用者自身が支払うこともある。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	町内のスーパーや散歩で外出する際はできるだけ外の空気を感じられるよう努めている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行きたい所に合わせて四季の花見学やイベント、地域での祭りに行っている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけることもできないが希望があれば支援はする。掛かってきた場合は取り次ぎ支援を行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	気を使うことなくすごしていただけるよう、本人の居室にてゆっくりとお茶を飲んだり、お菓子を食べながらすごしていただいている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束とは何か？の理解できていないスタッフもいるように思う。（新人スタッフも未経験なため）	○	身体拘束は行っていないが、未経験の新人スタッフにとっては言葉の理解ができていないと思われる勉強も必要である。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	以前はチャイムが事務所内にあり、手薄になった場合、離ホームが多く鍵をかけていたが、チャイムの位置を替えることにより、夜間以外は開錠しスタッフの見守りで離ホームも防げるようにしている。	
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	目の届く所にいない場合は確認をし、言動や行動の中で様子を把握し、危険性があると思われる場合には必要な対応をしている。	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険な物かどうか認識できなくなっているため、夜間は手の届かない場所に保管しているが、日中についてはスタッフが見守っているため状態に応じ対応している。	
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故が起きた場合は、その都度再発防止に向けての検討会を開き実行し、毎月1回、消防訓練も行っている。	
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年1回消防署において救命救急法の講習を受けている。	○ 継続していきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月消防訓練を行っている。地震・水害時は4Fへ避難できるよう指導している。地域の人にも緊急時には助けをいただけるよう話し、電話連絡させていただくようにしている。	○ 地域の方との信頼関係を深く持ち、協力していただけるように備えておく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	その都度、家族に心身の状態を説明し、リスクについての説明もし、理解していただきその中でできるだけ自由な生活を送れるよう支援している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	顔色やいつもと違う場合は体調の変化を疑い、直ぐにかかりつけ医に連絡を入れ、その都度、指示を仰いでいる。	○	スタッフ全員が体調の変化に気づけるよう観察力を身につけたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の支援は行えているが、副作用などについては全スタッフが理解しているとは思えない。	○	個別に内容や副作用がわかるようになっているので、全スタッフが理解できるように指導していく。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	散歩にでかけたり、ラジオ体操に参加し、体を動かすよう努力し、食事としては普通食としているが、硬便の方については水分を多く摂るように努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを行っている。歯磨きが不十分な方についてはスタッフが洗いなおしている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表で量を確認し、体重の変化にも気をつけ、水分量が必要な方にはおやつ以外にも水分を摂ってもらうように努め、体重増加が著しい方にはさりげなく多く見せるように食事量を工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症のマニュアルを作成している。インフルエンザ予防接種も行い、嘔吐があればノロウイルスを疑い、直ぐに対応できるよう1ヶ所に必要品をまとめて設置している。	○	確実に全スタッフが行えるかどうかはわからないため、研修などがあれば参加するようにしていく。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	手洗いを常に声かけし、調理道具の消毒・台所の消毒も毎日行っている。食材は地域のスーパーで買ってきて、期限内に使いきれの位の量とし余計な買い込みはひかえている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	なるべく普通の家庭に近い状態になるよう努め、玄関ロビーには花を植え、ドアはいつでも開くように開放しているが、4F建てのため家庭的な建物とは思えない。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は家庭的な設備となっている。その場に合った工夫し、音はその場その場に合わせ、光もその時々にあった明るさとしている。ユニットが3Fにあり上から庭を見て季節の花が見られる。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置き、廊下には長いすを置き、一人でゆっくりと思思いの所ですごしたり、またリビングで気の合う者同士会話をし過ごせる空間がある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた物を持ち込んでもらい、孫の 写真を置いたり、旦那さんの位牌も置き祭っている。中には家族の一時的な意見で、説明しても実 現できていないこともある。	○	ご家族に利用者本意になっていただけるようじっ くりと説明し、その必要性を理解していただける よう努力していく。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	それぞれの部屋に換気扇を設置し、エアコンも設 置してある。起床後や掃除時には窓を開け、空気 の入れ換えを行っている。必要に応じて加湿器も 使用し、汚物は毎回、袋に入れ処分し、朝と夕と 2回ゴミに出し臭いが出ないように工夫している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	浴室・トイレ・廊下、また、必要な部屋には必要 に応じて手すりがある。流し台の高さについては 利用者にちょうどくらないかと思える。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	一人ひとりに合わせて本人がなるべく意欲的に行 えるよう、また、生活できるように家事などもス タッフと一緒にしている。トイレや部屋にはわ かりやすく名前や場所を大きく表示している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	庭には草・木・花があり、畑には野菜を植えてあ る。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域の行事にはできるだけ積極的に参加するように努力し、また、施設でのイベントや行事には家族や地域に声を掛け参加していただき、ボランティアにも来ていただいている。手芸教室・ミュージックケア・折り紙教室などにも地域の方や宅老所の方も参加しにぎやかに行っている。